

# 市民の命を守る津波避難施設「希望の丘」完成！



いづどこで発生するかわからない災害に対して、小松島市では「防災・安全の確保」を主要な施策として掲げ、様々な防災・減災の取り組みを進めています。

ハード面では、南海トラフ巨大地震発生時に津波の到達が予測される和田島地区の小松島ニュータウン内に、平成二十八年七月、西日本で初となる盛土式の津波避難施設「希望の丘」が完成しました。海拔六・六mの頂上には、約九百二十人を収容（二人/mを基準とした場合）できる緊急避難場所が設けられています。同施設は、津

波発生時の一時避難場所となる他、平常時における防災訓練、市民の健康づくりや憩いの場として活用されるなど、地域に親しまれる公園としても利用されます。

またソフト面では、平成二十七年から市内の各小学校を会場として、毎年一回小松島市総合防災訓練を実施。海上自衛隊や県警、各消防団、医療機関など、小松島市内外の諸団体とも連携し、地域の防災力の向上に努めています。想定される大規模災害に備えて、市が一体となって命を守るまちづくりを進めています。